

平成 23 年度環境技術実証事業

自然地域トイレし尿処理技術ワーキンググループ会合（第 2 回）議事要旨

| | |
|--------|--|
| 日時 | 平成 23 年 7 月 11 日（月） 14 : 00~16:00 |
| 場所 | 港区生涯学習センター 303 学習室 |
| 出席者 | 検討員：岡城孝雄（（財）日本環境整備教育センター企画情報グループリーダー） 河村清史（埼玉大学大学院 教授）（座長） 木村茂雄（神奈川工科大学 教授） 桜井敏郎（（社）神奈川県生活水保全協会理事） 穂苅康治（槍ヶ岳観光㈱代表取締役） 吉田直哉（神奈川県自然環境保全センター主査） 五十音順 環境省：自然環境局自然環境整備担当参事官室（番匠克二、広野行男） 自然環境局国立公園課公園事業専門官（佐藤隆） 総合政策局環境研究技術室（吉岡健一） 事務局：NPO 法人山の ECHO（上幸雄、加藤篤、永原龍典） |
| 議事 | （1）地下浸透を伴う実証技術申請に対する取扱方針について （2）実証技術及び実証試験計画について（非公開） （3）ガイドブック素案について （4）自然地域トイレし尿処理技術セミナーの開催案について （5）その他 |
| 配付資料 | 資料 1 地下浸透を伴う実証技術申請に対する取扱方針（案） 資料 2 技術審査について（非公開） 資料 3 実証試験計画（案）（（財）日本環境整備教育センター）（非公開） 資料 4 ガイドブック（第 1 章・第 4 章）（案） 資料 5 平成 23 年度自然地域トイレし尿処理技術セミナー（案） |
| 公開／非公開 | 議事は公開で行なわれた（議事 2 は非公開） |

議事

（1）地下浸透を伴う実証技術申請に対する取扱方針について

- 追加する視点の一つは、「衛生面での安全性に配慮していること」とし、尿の処理水のみとするなどの例示は削除する。
- 「技術が十分な浄化能力を有していること」に続け、「が判断されること」と追記する。
- 今回の取り扱い方針については、現段階での確認事項とし、今後、必要に応じて修正を加えていくことを可能とする。

（2）実証技術及び実証試験計画について（非公開）

(3) ガイドブック素案について

- 各検討員がガイドブックを執筆する際の参考資料として、これまでに実証した技術の実証試験結果報告書概要版および、過去に開催したセミナー資料を共有することとする。
- その他執筆に必要と考えられる資料については、事務局と相談し収集することとする。
- 全体の用語の統一を行うことが必要である。
- 読みやすさや章毎のバランスを考慮した、全体の統一感が必要であると考えられる。各章及び全体の分量、文体について事務局から各検討員へ連絡することとする。
- 8月末を第一次目標として、原稿作成を進めることとする。

(4) 自然地域トイレし尿処理技術セミナーの開催案について

- セミナーの実施内容・時期は案とし、第3回WGで決定することとする。